

# 都市祭礼と神事としての佐原の大祭

## —変貌する町とイベント—

### トゥロフスカ・アグニェシカ\*

#### 1. はじめに

本研究は千葉県香取市の佐原の大祭を対象とするものである。佐原は、主に二つの地域にわけることができる。町を流れる小野川の東岸部を本宿、西岸部を新宿と称している。その二つの地域に、それぞれの総鎮守があり、それぞれの祭礼もある。本宿には7月に八坂神社祇園祭が行われ、新宿には10月に諏訪神社の秋祭りが行われる。両神社の祭礼の特徴として挙げられるのは、巨大な人形を載せた山車の登場である。

本研究は、それぞれの祭りの発展や現在の流れを扱うものである。研究方法として、調査者は2019年に本川岸という小野川の東側に位置する町内のメンバーとして佐原の大祭に参加し、聞き取り調査と参与観察のフィールドワークを行った。祇園祭という祭礼および山車行事の観察を通じて、本川岸の山車の紹介、祭礼に際しての山車のコースや山車の廻し方を説明し、さらに祭礼の最終日に行われる神輿巡行と浜下りという行事の江戸前期と現在の様子を比較するものである。その他、2019年に新宿の秋祭りの際に行ったフィールドワークを通して、台風の上陸前の祭礼のイレギュラーな様子と即位の礼奉祝山車引き廻しも観察できた。

フィールドワークや佐原に関する資料に基づいて江戸時代の佐原の大祭と現在の祭りの様子を比較する。つねに変貌する町の中でその行事はどの

ように変更してきたのかということに焦点を当てる。また、佐原の大祭を都市祭礼と神事として扱いつつ、さまざまな宗教行事の流れおよび観光化という過程なども取り上げる。

#### 2. 先行研究

佐原の大祭を研究対象として扱う論文の中で、宇野功一の「近代都市祭礼における神輿巡行と山車巡行の分離過程—千葉県佐原市新宿の諏訪祭礼を例に一」と「近世在郷町における祭礼の成立と展開—下総国佐原村の豪家・村組・町一」がある。宇野の研究は、佐原の祇園祭礼と諏訪祭礼の成立と展開などを詳細に説明するものである。本稿で佐原の有力者の日記や記録などが主要な資料として言及される。

また、塚原伸治の『老舗の伝統と<近代> 家業経営のエスノグラフィー』にも佐原の大祭が研究対象として取り上げられる。本著作では、著者が佐原の歴史と発展、さらに祭礼と経済などという問題に焦点を当てている。

本研究では、主要な資料として使われているのは、千葉県佐原市教育委員会によって発行された『佐原山車祭調査報告書』、佐原の大祭の変遷を取り上げた清宮良造の『佐原の大祭 山車まつり』や各町内によって発行された資料である。

#### 3. 佐原の歴史と発展

佐原は千葉県香取市の中心にある地区である。

\*ワルシャワ大学大学院生

江戸時代の利根川東遷事業のため、河港商業都市として栄えた地域となった。物資の集散地となった結果、酒や醤油の原料となる穀物が大量に集まっていたため、17世紀の終わりから醸造業が発展し始めた。また、佐原は、江戸時代、初めて実測による日本地図を完成させた伊能忠敬の出身地として知られている。しかし、明治期の終わり頃から、鉄道中心とした交通網への移動のため、佐原が物資の集散地としての機能を失った。

1988年に佐原では街並み保存運動が始まった。それ以前にも街ではさまざまな調査が行われたが、「ふるさと創生資金の使い道アイデア募集」という政策から保存運動が本格的になったと言われる。「ふるさと創生資金の使い道アイデア募集」というのは、各市区町村に対し地域振興の為に1億円を交付した政策である。

1996年に「小江戸」と呼ばれる街並みが文化庁の「重要伝統的建造物群保存地域」に指定を受けた。1994年から2016年にわたって町の修理件数は100件を超え、修景件数は40件を超えた。テレビ・映画のロケ地として使われることも年々増えていて、2013年にはその数は100件以上となった。マスコミを通して観光客を増やすための宣伝する一つの方法であると言える。修理修景の活用と町の宣伝にしたがって、観光客数も増加している。

#### 4. 佐原の大祭の概要

佐原を流れる小野川を境にして、東岸部を本宿、西岸部を新宿と称している。本宿と新宿にそれぞれの総鎮守がある。本宿には八坂神社があり、その神社の沿革については不明な部分が多い。1388年の香取文書により、中世期にその神社の存在は確認されている。元々、牛頭天王を祀る「牛頭天王社」であったが、神仏分離令（1868）によって名を変えた。さらに、祭神も牛頭天王が習合していた素戔鳴命に変えられた。元々天王社が本宿と新宿の鎮守として祀られていたが、その後、発

展した新宿は、諏訪神社を鎮守として祀るようになった。社伝では、1589年の創建とされている。諏訪神社は、建御名方神を祀っており、日本神話において建御名方神は大国主命の御子とされている。大国主命の命令で武甕槌神と力比叡を行った後、信州の諏訪湖に逃れたとされている建御名方神は、現在では、産業開拓、知徳および進学的神として祀られている。

八坂神社の夏祭りと諏訪神社秋祭りを佐原の大祭と称している。本宿の夏祭りは祇園祭で、7月10日以降の金曜・土曜・日曜日の3日間の日程で行われる。新宿の秋祭りは10月の第2土曜を中日とする金曜・土曜・日曜日の3日間の日程で行われる。2004年に「佐原の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定され、2016年にユネスコ世界無形文化遺産に登録された。

佐原の大祭の際、本宿の場合、10台の山車、新宿の場合、14台の山車が町ごとに曳き廻される。両祭礼の際に登場する山車が、四輪で二層構造で引き手によって綱で引かれて運行される。上層部に巨大な人形を載せ、下層部に「下座」と呼ばれる10人前後の囃子方「佐原囃子」を載せる。

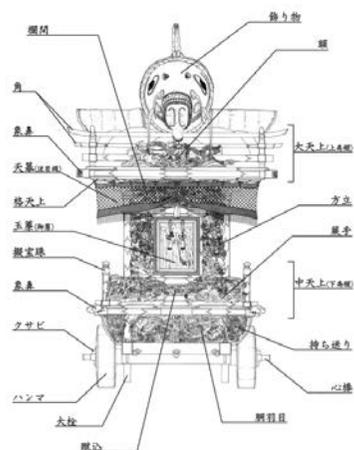


図1 山車の構造

(千葉県佐原市教育委員会 2001 『佐原山車祭調査報告書』65頁)

江戸職人によって作成された日本神話などを主題とした歴史上の人物の大人形が出現したのは江戸時代末期から明治の初めにかけてであった。大人形が出現する前、氏子が藁などで飾り物を作っていた。現在では、夏祭りの際に登場する八日市場の麦藁細工の鯉と仁井宿の稲藁細工の鷹が町内に住む人たちによって製作されている。大人形は、身の丈約4メートルにも及ぶ。江戸時代における山車の引き廻しは、神輿渡御を先導していたが、現在は、山車行列と神輿渡御が別々巡行するようになった。

各祭礼は年番制度によって行われる。本宿八坂神社と新宿諏訪神社の行事を二つの行事のタイプに分けることができる。それは、神輿の巡幸を含めた神社の年中行事と山車行事である。神社の年中行事の場合、本宿では、十町内が一年交代で神社の諸行事を担当し、新宿では、町内が四つの地区に分かれて、地区単位で二年交代で諸行事を担当する。山車行事が三年の任期で行われていて、山車行事を担当する町内を本宿では「山車年番」、新宿では「幣台年番」と呼んでいる。

## 5. 八坂神社の夏祭り

八坂神社の夏祭りは祇園祭である。祇園祭というのは、祇園牛頭天王を祀る、悪疫退散の神事である。日本のさまざまな地域で祇園祭が行われているが、特に有名なのは、京都祇園祭と博多祇園山笠である。本宿の場合、天王社の神輿が氏子圏を巡行する形式は1703年に始まった。徐々に御旅所、神幸の順路、神輿行列の構成が整えられていた。1767年に還幸の範囲が本宿全町の拡大し、1768年から町々では山車などの練り物を出すようになった。

2019年7月10日に祇園祭が行われ、7月12～14日に八坂神社の夏祭りが行われた。寺宿という町内が神輿年番を担当した。

筆者は、当年本川岸という町内のメンバーとし

て佐原の大祭に参加した。その町内の山車の大人形は芸能の始祖神である天鈿女命である。山車の作成年は1882年（明治15年）で、飾り物の作成年は1804年（文化元年）で、最古だと言われている。

各町内の山車が事前に決められたエリアで引き廻せられる。各祭礼の3日間、毎日違うコース表によって山車が運行される。

13日に「のの字廻し」が行われた。コース表では「のの字廻し」は真ん中に書いてある「の」で示してある。「のの字廻し」というのは、佐原の大祭の際に行われる山車の廻し方である。山車が一列に並び、一台ずつ交差点に向かって、交差点で山車が「の」の字を描くように数回転させられる。

7月14日は当年の夏祭りの最終日であった。その日に、神輿巡行と浜下りという行事が行われた。浜下りとは、神体、神輿や人が海浜や川辺に出て水を浴びてみそぎをする神事である。この神事は、水にはものを浄化する力があるという考えに基づくものである。江戸前期の本宿では祇園祭りは、旧暦6月10日から3日間に行われた。その時期は梅雨の後半で、洪水が常に発生するため、疫病が流行しやすかったようである。現在のような祇園祭礼の形と違って、元々は、旧暦6月10日に天王社から神輿を出して、橋元から川舟に乗せた。その際に神酒奉獻と神楽奉納が行われた。神事が行われた後、神輿を天王社に戻した。12日に行われた祇園の神事では、再び神輿を天王社から出して、事前に作った御仮屋へ神輿を運び、また神酒奉獻と神楽奉納が行われた。しかし、近年になってから、形が少し変わり、この2つの行事が統合した。具体的には、10日に橋元で浜下り神事を行った後に、神輿を天王社には戻さず、12日まで御旅所に神輿を据え置いた。神輿を天王社に戻すと参詣できる時間と人数は限られるのである。そのため、10日の神輿の移動が行幸、12日の神輿の移動が還幸という形になり、神幸が成立した。この時の神幸の範囲はとても狭く、今のように広くはなかつ

た。19世紀になってから、幟・獅子・猿田彦・神輿・神楽の順で神輿行列を構成できたが、幟は戦前に廃止された。戦後は、各山車は自由に引き廻されるようになった。現在は、浜下りを祭礼の最終日に行い、その後、神輿行列が本宿全町を巡行している。獅子・猿田彦・神楽は現在も神輿の前後を守っている。また、浜下りは小野川に入る代わりに水を撒き清める。

さらに、2019年10月22日に、本宿では天皇陛下の御即位を奉祝するため、山車の曳き廻しが行われた。その際に、「皇尊弥栄」や「八紘一字」という言葉や日の丸などを見かけることができた。その日にも「のの字廻し」が夜に行われた。

## 6. 諏訪神社の秋祭り

新宿の諏訪神社の秋祭りは、信州諏訪神社の御射山神事から由来すると言われている。その祭礼は、1721年に、練物を中心として成立した。その際に、8台の山車が現れたそうである。新宿の祭礼の山車の出現は、本宿に先立つこと約50年前となる。ただし、現在のような山車の祭りが成立するのは、江戸時代後期以降と考えられる。

2019年10月11～13日に佐原の秋祭りを行う予定だった。当年の山車年番は、下分という町内だった。2019年に新宿の秋祭りに行ったフィールドワークを通して、台風上陸前の祭礼のイレギュラーな様子を観察できた。台風19号によって、さまざまな変更があったが、10月11日に山車が引き廻された。12日は中止となったが、13日は山車が引き廻された。しかし、利根川が氾濫危険水位に到達したので、避難勧告が発令された。ところが、それを無視して山車を引き廻し続けた町内もあり、警察に怒られたそうである。12日にさまざまなステージ広場などが中止になり、広場での手踊りや伝統芸能の披露は行われなかった。11日に筆者が佐原でフィールドワークを行っていた際に、本年の祭りについて、「最悪」、「悲しいお祭り」という

参加者の声が聞けた。また、当年の祭礼の際、御旅所の場所を東通り沿いから与倉屋大土蔵へ変更した。

11日にも、神輿巡行が行われた。訪神社の秋祭りの際には、本宿の八坂神社祇園祭と違い、神輿は車に載せられている。

## 7. 佐原の大祭における観光化（例）

両祭礼の際にも、ステージが設置される。ステージでは、手踊りのパフォーマンスや佐原囃子の演奏などが行われる。祭礼の際にも、見どころ情報、地図、山車の紹介などが載っている「まつりガイド・マップ」が配布される。また、ガイド・マップに載せてあるQRコードをスキャンすると、山車の位置がわかるようになる。さらに、祭礼の際にも、東京の新宿駅から佐原駅までJR臨時特急が走る。

## 8. おわりに

佐原の大祭の場合、町の変貌が祭礼にも影響を与えたといえる。新宿が発展したため、諏訪神社ができ、祇園祭とまた別の行事が成立した。また、佐原は繁栄したため、住民も豊かになり、元々氏子によって藁で作られた人形が、江戸職人によって作られた巨大な人形に変化した。それにしたがって、本宿の夏祭りは、お神輿中心の行事から、山車中心の行事に変更したと言える。また、佐原が「重要伝統的建造物群保存地域」に指定を受けたことや、佐原の大祭が「ユネスコ世界無形文化遺産」に登録されたことで、観光化が進んでいて、以前は見かけられないこと、例えば、ステージの設置、「まつりガイド・マップ」、さらに、お揃いの半纏も、祭礼の際に出現するようになった。

しかし、町内に住む人々は佐原の大祭を観光客向けのイベントとは考えていない。佐原の大祭の際に登場する山車をよく見てみると、山車にはお

酒が置いてあることに気づくだろう。参加する人たちが、3日間、朝から夜までずっとお酒を飲み続けて、盛り上がりながら、祭りを楽しんでいる。佐原から出た人も祭りの際に必ず地元に戻るという話もよく聞こえた。本宿の八坂神社の夏祭りと新宿の諏訪神社の秋祭りは、佐原の人にとっては、年に一度しか行われない大事な行事である。

#### 参考文献

- 阿南透 2018 「高度経済成長期における都市祭礼の衰退と復活」『国立歴史民俗博物館研究報告』第207集
- 岩本通弥 2013 『世界遺産時代の民俗学—グローバル・スタンダードの受容をめぐる日韓比較』風響社
- 小野川と佐原の街並みを考える会 2001 『佐原の街並み』
- 小野川と佐原の街並みを考える会 2001 『町づくり10年のあゆみ—歴史のまち保存と再生—』
- 小野川と佐原の街並みを考える会 2010 『町並み保存と再生—まちづくり20年の歩み—』
- 植木行宣・田井竜一 2005 「都市の祭礼—山・鉦・屋台と囃子—」『京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究叢書1』岩田書院
- 宇野功一 2005 「近代都市祭礼における神輿巡行と山車巡行の分離過程—千葉県佐原市新宿の諏訪祭礼を例に—」、「近世在郷町における祭礼の成立と展開—下総国佐原村の豪家・村組・町—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第124集
- 清宮良造 2003 『佐原の大祭 山車まつり』NPOまちおこし佐原の大祭振興協会
- 国立歴史民俗博物館 1994 『描かれた祭礼』
- 国立歴史民俗博物館 2012 『行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—』
- 原田高志 2016 『佐原 八坂神社 祇園祭神輿神幸—悪病退散祈願と地域文化の継承—』
- 坂本行広 2018 『佐原の大祭』
- 佐原アカデミア 2017 『写真文集 佐原の大祭』言叢社
- 佐原アカデミア 2018 『近世佐原の八日市場町と本宿祭礼の記録』
- 佐原印刷株式会社 2017 『佐原の山車行事』
- 水郷佐原観光協会佐原古文書学習会 2018 『祇園一条書抜—近世佐原本宿祭礼の記録—』
- 千葉県佐原市教育委員会 2001 『佐原山車祭調査報告書』

- 千代田区教育委員会 1999 「続・江戸型山車のゆくえ—天下祭及び祭礼文化 伝播に関する調査・研究報告書—」『千代田区文化財調査報告書十一』
- 塚原伸治 2014 『老舗の伝統と<近代> 家業経営のエスノグラフィー』吉川弘文館
- 中野紀和 2003 「都市祭礼・小倉祇園太鼓をめぐる語り—獲得される『場所性』—」岩本通弥(編)『記憶』朝倉書店
- 森田真也 2003 「観光客にとっての祭礼、地域にとっての祭礼—沖縄竹富島の種子取祭から—」岩本通弥(編)『記憶』朝倉書店
- 日本生活学会 2000 「祭礼の一〇〇年」『日本生活学会編』第二十四冊 ドメス出版
- 本宿惣町 2018 『八坂神社行事運営要領』
- 柳田文夫 2018 『荒久区の山車新造記念誌 威信崇徳 悠久の憑代の下で』
- 水郷佐原観光協会 「Film Commission ロケ地情報」  
<http://www.suigo-sawara.ne.jp/index.html?p=we-page-entrylist&spotlist=3662> (2019/11/16 アクセス)
- 香取市ホームページ 「佐原の大祭秋祭り 台風19号による変更について」  
<https://www.city.katori.lg.jp/smph/sightseeing/gyoji/aki/changesofthefestival.html> (2019/11/16 アクセス)